

# 下大和田谷津田だより

2002年5月号

## 野草を食べる会 4月7日 曇り

2年前のちば環境情報センター研修会で結成されたEating Nature Group (略してENG) はこれまで市原市の谷津で定例の野草を食べる会を行ってきましたが、今年は下大和田で開催されました。

夜通し降り続いた雨に実施が危ぶまれましたが、何とか朝にはあがり、30名近い方々が参加されました。まずはみんなで野草探し。雨上がりの谷津をあちこち散策して歩き、たくさんの食材が集まりました。天ぷらは、ドクダミ、ヨモギ、ギシギシ、サンショウ、ニワトコ、タンポポなど。加えて、袴を丁寧にはずしたツクシの炒め物やセリのお浸しはいかにも春らしい味でした。身近にこれだけ美味しい野草があるのは本当に幸せですね。野草に加えて、何と土水路ですくったザリガニ、スジエビ、ドジョウ、タモロコも天ぷらに！ほとんどの人がはじめての経験でしたので、恐る恐る口に運びましたが、特にザリガニの意外な美味しさに歓声が上がりました。2つ、3つと思わず手を伸ばしてしまう人もたくさんいて、網を持って再び水路へ取りに行くことになりました。

ちょっとひんやりとした天気でしたので、焚き火が気持ちよく感じられました。その火で竹を使ったご飯炊きにも挑戦。孟宗竹に窓を開けただけの器ですが、1時間弱で思ったより簡単にうまく炊きあがり、今の炊飯器では味わえないおこげも楽しめました。

春の味覚を満喫し、自然の恵みを実感した一日でした。

(参加者：大人23人・子供5人)

## 第27回定例自然観察会報告 4月7日 曇り

前日からの雨が朝にはあがり、曇り空の下での観察会でした。花をつけている草木の種類が3月の14から50種類と増えて、観察も急に忙しくなりました。ワラビが出ていたり、サシバの鳴き声が聞こえたり、季節がどんどん進んでいます。珍しい白花のカラスノエンドウも見つけました。

観察された動植物は次のとおりです。

<花> タチツボスミレ、ヒメオドリコソウ、ミツバアケビ、セイヨウタンポポ、オニタビラコ、スギナ、オオイヌノフグリ、カラスノエンドウ、クサノオウ、クサイチゴ、タチイヌノフグリ、キュウリグサ、ホトケノザ、オオジシバリ、ケキツネノボタン、ハルジオン、ノゲシ、ナズナ、ヘビイチゴ、オランダミミナグサ、ハハコグサ、チチコグサモドキ、オノノゲシ、ナガミヒナゲシ、シロツメクサ、カタバミ、カントウタンポポ、ウラシマソウ、ヤブタビラコ、ムラサキケマン、キランソウ、スズメノヤリ、スイバ、タネツケバナ、ノミノフスマ、ツボスミレ、ショウブ、モミジイチゴ、キジムシロ、クサボケ、ニワトコ、コナラ、ヤマザクラ、クヌギ、オオシマザクラ、アケビ、イヌムギ、スズメノテッポウ、タガラシ、スズメノカタビラ

<野鳥> サシバ、キジ、コジュケイ、ウグイス、コゲラ、カワラヒワ、ハシブトガラス、キジバト、アオジ、クサシギ、カルガモ、メジロ、エナガ

<昆虫ほか> ナナホシテントウ、ツマグロオオヨコバイ、マルカメムシ、サシガメの仲間、ガの仲間、クワゴマダラヒトリの幼虫、アメンボ、イオウイロハシリグモ、シュレーゲルアオガエル、アマガエル、カナヘビ、

<水中生物> ギンブナ、シマドジョウ、ドジョウ、メダカ、タモロコ、アメリカザリガニ、スジエビ、ヨコエビ、カワニナ、オオタニシ

ウラもご覧下さい！

## 第10回YPP報告 わいわい田仕事・生きもの地図づくり

4月21日 雨

午後から天気が崩れるとの予報が外れて、朝から雨。「YPPは雨に降られない」というほぼ1年間続いてきた伝説がついに崩れてしまいました。田んぼの仕事は中止しましたが、傘をさして生き物探しをしました。あぜ道をゆっくりと歩いているといろいろな発見があります。葉陰でひっそり咲くショウブの花、卵のかたまりを背負った小さな巻き貝（サカマキガイ）、よ〜く見ると種類が違うタニシ（マルタニシとオオタニシ）、いろいろな種類の毛虫たちなどなど。雨音に合わせてシュレーゲルアオガエルが鳴き続け、時折、カワセミやツバメ、サシバ（夏鳥のワシ）の声も聞かれました。子供たちは途中から傘を捨てて、田んぼをのぞき込んでいました。雨の観察会もいいですね。

（参加者：大人4人・小学生2人・幼稚園児2人）

## 第11回YPP報告 緊急YPP！どろんこ田起こし

4月27日 晴れ

秋に田起こしを終えていたのですが、土が固く締まってしまい、もう一度起こすことになりました。急な呼びかけにもかかわらず、20名を超える助っ人が集まり、昼までに田起こしや雑草取りを終えることができました。鍬を使っての田起こし、深くまでしっかりと地下茎を伸ばしているガマの除去など、慣れない仕事に皆さん苦闘しましたが、すぐそばで「キリリッ、コロロッ」となくシュレーゲルアオガエルの応援歌や谷津をわたる風が清涼剤となって気持ちよく作業を楽しめました。田起こしを終えた田んぼに水を入れると、そこは子供たちの泥んこ遊び場。最初は手や洋服の汚れを気にしていた子も一度入ってしまえばへっちゃら。顔まで泥んこにして大騒ぎでした。お陰で田んぼもだいぶ均されました。さ〜て、次はいよいよ田植えです！

作業の間いろいろな生き物にも出会えました。一番は何と言っても体長2メートルはあるアオダイショウ。暖かな日差しを浴びてのんびり日向ぼっこをしていました。カワトンボやシオヤトンボなどトンボも姿を見せ始めました。土水路に面した田んぼに水が入ると、姿を隠していたメダカたちがたくさん、一斉に入ってきました。田んぼには餌になるたくさんのプランクトンがいるせいでしょうか。南国から渡ってきた鳥、オオヨシキリも「ギョギョシ、ギョギョシ」とさえずりを聞かせてくれました。谷津田は生き物の楽園です。

<参加者の声>

私はもっぱら下の田んぼの雑草ぬきをやっていましたが、ぬいても抜いても無くならない雑草に、根性をためされたようでした。でもいいお天気の下でとっても楽しかった……。手は、草のアクでまだ真っ黒、今朝は何となく足腰がぎくしゃくしていますが……。（小西さん）

田起こしは楽しいですね。明日を始める最初の作業には夢があり楽しみが無限に広がっています。田んぼキャンパスを目の前にこれから訪れるであろう大勢の人々の思い、思いとは無関係に田んぼに広がる宇宙、いのち達の攻防、実りまでの時間を想像するとわくわくしませんか。気に入った本の最初の1ページを開く時の期待と不安とでも言った……。（瓜生さん）

（参加者：大人14人・高校生5人・小学生4人・乳幼児2人）

定例観察会と谷津田プレーランドプロジェクト（YPP）の活動を中心として、下大和田のようすを皆さんにお伝えします。皆様のご投稿、ご意見をお待ちしています。 高山邦明